

レクをする人を育てるレクマガジン!

介護レク広場.book

別冊
おはよう21
2020年3月号



2020年
4・5月レク
Vol.12

介護レク広場.book
脳活
素材集
付き!

連載
第3回! 認知症予防にも
つながる
介護レクリエーション



巻頭
特集

身体機能の回復ばかりに
注目していませんか?

特集2

自立支援を意識した レクリエーション活動 ワンポイント!

介護レクで 心を動かす 自立支援

自宅に持ち帰ってできる レクリエーション

かかと落とし体操/目覚めスッキリ、お目玉ハッチリ体操/
ビニール袋携帯ケース など

60分完全版レクプログラム

レクが楽しくないのは

ネタのせいじゃない!

4月「お花見幕の内弁当」じゃんけん

5月 個性溢れる「けい玉づくり」



本をとび出して//
スマホで見ると
動画つき

事業に役立つ最旬情報をギュッとお届け！

介護ニューズ広場

介護ニューズ広場では、介護業界のトピックスや旬の話題をお届けします。介護レクリエーションの現場で役立つ情報も満載ですよ！

学生と施設をつなげる

玉城：今日は介護業界の「人材」に焦点を当てて、お話を聞きます。まず、ミライ塾について教えてください。

奥平：ミライ塾は、経済的理由で進学が困難な学生さんと、人材確保に悩む介護業界とを結びつけ、介護の仕事を通して人材を育成し、社会に送り出していく取り組みです。学生さん達は、法人さんから学費の貸付けを受け、在学中に介護施設でアルバイトをしながら、できるだけ奨学金を返済し、「自分の力で進学する」ための進学支援制度です。在学中は、学生さん達の仕事面や学校面、生活面を面談や研修などを通してサポートしています。



切羽詰まった介護業界の人材不足。果たして解決策はあるのか？働きながら進学するインターンシップ型自立支援プログラム「ミライ塾」を運営する奥平氏に、そのヒントを伺ってきました。

介護業界のミライを考える

介護業界の人材不足に解決策はあるか？

介護業界の人材不足解決につながるのではと注目を集める「ミライ塾」。その活動のなかで見えてきた、課題解決のヒントとは？

KEYWORD TALK
1
対談

フロントランナーに聞く！

キーワードTALK

人が辞めない施設は教育体制がある

玉城：そのように学生と施設をつなげているなかで、良い施設と悪い施設というものも見えてくるのでしょうか。

奥平：誰かにとってはベストな施設でも、他の誰かにとってはパッドな施設ということは往々にしてあります。ただ、現場の職員を、育てるべき人材ではなくただの頭数としてしか見ていない法人さんは、誰にとってもパッドだと思います。

当塾生を受け入れていただいている法人さんは、人材確保という視点だけでなく、進学が困難な学生支援、介護の仕事を通して活躍できる人材を育てるということを理解し、全力で支援してくださっています。人が辞めにくいというのは、やはり教育やサポートが整っており、人材を大切にしている施設が多いですね。当塾生さん達も生き生きと働いています。

玉城：そういう施設を増やしていくということが、業界的にも大事ですね。一方で、介護業界で働くスタッフさんの未来という切り口で考えた時に、働く人のマイン

との向き合い方を大事に伝えていきます。利用者さんに向き合う仕事は作業ではないということを理解してもらい、その意味や楽しみ方、得られるスキルをしっかりと意識できると、仕事は楽しくなっていくと思います。時間の使い方については、何時にやってもいい業務は空いている時間になるべく早く終わらせるように指導しています。すると対人関係の業務で急な対応を迫られても、時間にも気持ちにも余裕を持って対応することができます。

玉城：時間の使い方、業務への向き合い方が改善できないと、ただしんどいという印象になるわけですね。

覚悟を持って仕事は楽しくなる

奥平：私がよく塾生に言っているのは、現場でとにかくファン作りをしないといけないことです。利用者さんに対するファン作りはやっていても、他スタッフに対してのファン作りはしていないことが多いです。どの様な業界でも、シフト制のところは「今日はあいつかよ」と言われる人っていますよね。一方で、「今日はあの人だ、ラッキー」と言われる人もいます。塾生には、そういう人になりなさいと言っています。そして、そういう人になるためには、結局は、周りが働きやすくなるように自分が動く人になるということですよ。

玉城：自分がいかに潤滑油になれるのかと



いうことですね。

奥平：自分がやることによって、次の人は気持ちよく働けるし、やってくれたという気持ちからプラスの循環が生まれます。逆に手を抜けば、マイナスの循環が生まれます。

そういう意味で、玉城さんが仰るように、変えなきゃいけないのは、一番は1人ひとりの意識だと思います。あと、私たちが一番大事にしているのは、本人の覚悟です。本人がどれだけの覚悟を持って、その仕事に真剣に向き合っているか。覚悟を持って取り組めば、仕事の奥行きも見えてきますし、楽しくなるものだと思います。

10できなくても6できる人はいる

玉城：介護職の人がいないから倒産したという話も聞きますけど、人が採用できている施設もありますよね。

奥平：人材がない訳ではなく、10できる人が少ないだけです。これはどの業界でも同じ。10できる人はいなくても、6できる人はいます。例えば、主婦の方や学生さん。介護の仕事は、生活者の一日をサポートしている仕事なので、仕事全体の流れを見ることが大事だとは思いますが、こ

ういう方々に目を向けて、どんな時間、どんな働き方であれば働けるかということから、働き方をデザインできれば、もしかししたら、働きたくても働けない人が働けて、人手不足も解消されるかもしれないと思っています。とても居心地が良く、なぜだろうと思った施設を見学したことがあります。その施設では障がいを持った方が清掃職員として働かれていて、床をピカピカに磨いて頑張られていたんです。この居心地の良さは彼が作り出したものだと、これはすごいなと思いました。「この施設の良さは彼ですね」と感動して思わず施設長さんに言っちゃったくらいです。

玉城：そういうのを聞くと、可能性をもっと探らないとだめだなと思いますね。

奥平：多様性に対応するのは大変ですが、既に取り組まれているところも沢山あって、いち早く取り組んだところが生き残るのだからと思っています。人が採れませんでなくて、採るための柔軟な発想と出会えた人材を大事に育てる仕組み作りが大事ですね。



ドも大切なかなとも感じます。というのも、現場で働くスタッフさんが仕事に対しての魅力や興行きなどに気づいていないことも多いのではないかと。そこに気づいている方は楽しそうに仕事されている気がします。

奥平：そうですね。マインドという点では、介護の仕事への向き合い方や時間の使い方が大きく影響していると思います。

玉城：どういうことでしょうか。

奥平：向き合い方ですが、介護の現場には、利用者さんとコミュニケーションが必要となる業務、トイレ掃除などの雑用的な業務、記録などの事務的な業務があります。どの業務も現場に入ってます。「何時から何時までの間に、何をやる…」みたいな「やり方(作業)」を教わることが多々あります。介護の入口を作業で入ってしまうと、利用者さんとコミュニケーションが必要な業務なども作業になってしまっているのではないかと思います。ミライ塾では、特に仕事

●奥平 幹也 氏
株式会社介護コネクション
代表取締役
ミライ塾 塾長
1974年生まれ。早稲田大学卒業後、不動産鑑定事務所を経て、2012年に「株式会社介護コネクション」を設立。2015年に新聞奨学生だった自身の経験を生かして、インターンシップ型自立支援プログラム「ミライ塾」をスタート。